

ドイツ語 (初級B) / A ドイツ語 第21回 指示代名詞、不定代名詞、再帰代名詞と再帰動詞

範囲: 教科書第13課 A, B (S. 51-54)

《今回の基本例文》

69. Ich kann mich an die Sache nicht mehr erinnern. (CD66-5)

もう私はそのことを思い出せない。

[再帰代名詞 **sich**、再帰動詞、特定の前置詞と結ぶ再帰動詞による熟語 (1)、(話法の助動詞)]

70. Er freut sich auf den Ausflug. (CD66-1)

彼はピクニックを楽しみにしている。

[再帰代名詞 **sich**、再帰動詞、特定の前置詞と結ぶ再帰動詞による熟語 (2a)]

71. Wir haben uns über Ihr Geschenk sehr gefreut. (CD66-2)

私たちはあなたの (あなたがたの) プレゼントをたいへん喜んでおりました。

[再帰代名詞 **sich**、再帰動詞、特定の前置詞と結ぶ再帰動詞による熟語 (2b)、(現在完了 (haben 支配))]

72. Interessierst du dich für klassische Musik? (CD66-6)

君はクラシック音楽に興味があるのか?

[再帰代名詞 **sich**、再帰動詞、特定の前置詞と結ぶ再帰動詞による熟語 (3)]

I 指示代名詞・不定代名詞

A. 指示代名詞・不定代名詞 (S. 51)

補足 代名詞のまとめ

◇ 代名詞としては、

・ **所有代名詞**: **mein** 型 (教科書第4課)

* むろん不定冠詞類 (**mein** 型) の変化をした。

・ **人称代名詞**: 教科書第6課

* 教科書 S. 26 の表のような特殊な変化をした。

・ **指示代名詞**: **dieser** や **solcher** (教科書第4課)、**der** など (今回の範囲)

* **dieser** や **solcher** は定冠詞類 (**dieser** 型) の変化をした。

・ **不定代名詞**: **jeder** (教科書第4課)、**etwas**、**nichts**、**man** など (例文中で何度か登場)、**einer** など (今回の範囲)

* **jeder** は定冠詞類 (**dieser** 型) の変化をした。一方、**etwas** や **nichts** は無変化で、**man** はそもそも1格しかなかった。

・ **再帰代名詞**: **sich** (今回の範囲)

・ **関係代名詞**: のちほど教科書第15課で学習する

などがある。

* いずれも概念としては英語と同じと考えてよい。

1 指示代名詞 der

- ◇ 「これ、それ、あれ」を示す最も基本的な指示代名詞。英語の *this* や *that* に相当。
- ◇ 変化形は定冠詞 *der* に近い。

	男性	女性	中性	複数
1 格	der	die	das	die
2 格	dessen	deren	dessen	deren
3 格	dem	der	dem	denen
4 格	den	die	das	die

- * 2 格の *dessen* と *deren*、複数 3 格の *denen* のみ独自。あとは定冠詞と同じ。
- ** *das* のみは性・数に関係なく「それ」の意味で使用可能。*das ist ...*はこの *das* にあたる。

- ◇ ただし、定冠詞 *der* がアクセントを持たないのとは異なり、いずれも強く発音する。
- ◇ 基本的な用法は、

・「**これ、それ、あれ／こいつ、そいつ、あいつ**」と強く指示したいとき（人称代名詞に置き換えても成立する場合もある）

・既知の名詞を受ける（同上）。

Kennst du den da? Ich meine den in Uniform.

君はあの男を知っているか。ユニフォームを着たあの男のことを言っているんだよ。

* 第1文は強い指示の用法、第2文は既知の名詞を受ける用法。

Das ist mein Bruder / meine Schwester.

これが私の兄弟／姉妹です。

Das sind meine Freunde.

これが私の友人たちです。

* 以上2つは男性／女性／複数を *das* で受ける場合。もちろん、複数だと動詞もそれに対応した変化をする。

・同一語の反復を避けるために用いる。

Das sind die Fotos von meiner Familie und die von meinen Freunden.

これは私の家族の写真と、私の友人たちのそれです。

* この *die* は *die Fotos* を指すが、反復を避けるために指示代名詞を使っている。英語の *that of ...* や *those of ...* に相当。

- ◇ 2 格の **dessen, deren** は所有代名詞や人称代名詞が使用できないときに使用し、後置ではなく前置する。

Petra hasst Renate und deren Mann.

ペトラはレナーテとその（＝レナーテの）夫を嫌っている。

* この場合、指示代名詞 *der* の 2 格は直前の同じ性数の名詞を受けるので、*deren* はレナーテを指す。

Petra hasst Renate und ihren Mann.

ペトラはレナーテと彼女の（＝ペトラ自身の）夫を嫌っている。

* こちらの場合、所有代名詞は主語を指すと考えるのが普通である。

2 不定代名詞 einer、keiner (S. 52)

- ◇ 「ある人、ある一人/ある物、ある一つ」、もしくはその否定形を示す最も基本的な不定代名詞。
- ◇ 変化形は dieser 型。

	男性	女性	中性
1 格	einer	eine	ein[e]s
2 格	eines	einer	eines
3 格	einem	einer	einem
4 格	einen	eine	ein[e]s

	男性	女性	中性	複数
1 格	keiner	keine	kein[e]s	keine
2 格	keines	keiner	keines	keiner
3 格	keinem	keiner	keinem	keinen
4 格	keinen	keine	kein[e]s	keine

* 不定冠詞 ein や mein 型ではなく dieser 型であり、男性 1 格、中性 1 格と 4 格にも語尾が入ることに注意。

- ◇ 似た意味の不定代名詞として、jemand (誰か、somebody) および niemand (誰も～ない、nobody) がある。

	男性
1 格	jemand
2 格	jemand(e)s
3 格	jemand(em)
4 格	jemand(en)

	男性
1 格	niemand
2 格	niemand(e)s
3 格	niemand(em)
4 格	niemand(en)

* 両者ともに文法上は男性として扱われるが (指示代名詞 der で受けられる、など)、意味のうえでは男性に限らない。

** 「人の 3 格」を表す辞書記号の jm.、「人の 4 格」を表す辞書記号の jn.などがこの jemand の変化表に由来することはすでに学んだ。(⇒授業第 9 回配付資料 S. 2)

- ◇ 基本的な用法は、

- **einer** なら「ある一人の人、ある一つの物/こと」(some one)、**keiner** なら「誰一人として/何一つとして～ない」(no one) として、単独で使用する

Damals hat mir keiner [nur einer] geholfen.

そのとき誰も私を助けてくれなかった。/ただ一人だけが助けてくれた。

* この **keiner** は主語。特に女性や複数人が想定されていない場合、男性形を用いる。

Ein[e]s darf man nicht vergessen.

一つ忘れてはいけないことがある。

* この ein[e]s は vergessen の 4 格目的語。人間ではなく「こと」なので中性形を用いている。

- 既知の不定冠詞つきの名詞を受ける。

Hast du einen Führerschein?

君は運転免許証を持っているか。

- Ja, ich habe einen. / Nein, ich habe keinen.

うん、持っているよ。/いや、持ってないよ。

Wir nahmen an einem der Tische Platz.

私たちはテーブルの一つに向かって座った。

* この einem は einem Tisch を受けており、複数 2 格の der Tische がそこにかかって、「(複数の) 机のうちの一つ」の意味になる。不定代名詞 einer+2 格で英語の one of the ... に相当。

II 再帰代名詞と再帰動詞

B. 再帰代名詞・再帰動詞 (S. 52)

1 再帰代名詞

再帰代名詞 = sich (基本形)
 → 主語と同じもの (自分自身) を指す

◇ 主語と同じものを指す3格や4格の代名詞を再帰代名詞といい、基本形は **sich** である。英語の *oneself* に相当する。辞書などでは、3格の **sich** を **sich³**、4格の **sich** を **sich⁴** のように表記している (もちろん実際の文面では数字は書かない)。

◇ 3人称のときは **sich** をそのまま使用するが、1人称や2人称のときは人称代名詞と同じかたちを用いる。

	1 人称		2 人称		3 人称		2 人称 (敬称)
	単数	複数	単数	複数	単数	複数	
3 格	mir	uns	dir	euch	sich		sich
4 格	mich	uns	dich	euch	sich		sich

* 英語の *oneself* を1人称や2人称で用いるときは *myself, ourselves, yourself, yourselves* に変化させるのと同様と考えればよい。

◇ 基本的な用法は、

- ・「**自分自身に、自分自身を**」を意味する。

Er nahm die Schuld auf **sich⁴**.

彼は責任を (自分自身のうえに) 引き受けた。

Hast du deinen Führerschein bei **dir**?

君は運転免許証を (自分自身の) 手元に持っているかい。

Er rief seine drei Söhne zu **sich³**.

彼は3人の息子たちを (自分自身のもとへ) 呼び寄せた。

* **sich** についた上付き文字の3や4は格関係の説明のため便宜的に入れたもので、本来は書かれない。

・主語が複数形するとき、3格目的語や4格目的語に再帰代名詞をとると、「互いに」の意味になることがある (**相互代名詞**的用法)。

Wir helfen **uns**.

私たちは互いに助け合う。

Hans und Peter helfen **sich³**.

ハンスとペーターは互いに助け合う。

* 本来の相互代名詞は *einander*。上記の例文にこちらを用いてもよい。

** 同じく、**sich** についた上付き文字の3は格関係の説明のため便宜的に入れたもので、本来は書かれない。

2 再帰動詞 (S. 53)

◇ 3格目的語や4格目的語に再帰代名詞をとることで特定の意味を表す動詞を、**再帰動詞**という。英語でも再帰動詞は見られるが (*enjoy oneself* など)、ドイツ語では英語よりはるかにその数が多い。

◇ 再帰動詞としての用法を持つ動詞を辞書で引くと、それとわかる記号が記されており (再帰) など、不定詞句のかたちで再帰動詞としての用法が記述されている。各自の辞書で確認しておくこと。

◇ 再帰動詞の例。

• **sich⁴ verspäten / sich⁴ beeilen** : 遅刻する / 急ぐ

* *verspäten* はもともと「(4格) を遅らせる」という意味の他動詞であり、その意味でも使ってよい。一方、4格目的語の部分に再帰代名詞が入ることで、「自分を遅らせる」つまり「遅刻する」の意味になる。

** *beeilen* はもともと他動詞「(4格) を急がせる」。上と同様に再帰動詞をつくる。

Ich verspäte mir. / Du verspätetest dich. / Er verspätet sich.

Wir verspäten uns. / Ihr verspätet euch. / Sie verspäten sich.

私は / 君は / 彼は遅刻する。

我々は / 君たちは / 彼らは遅刻する。

• **sich⁴ setzen** : 席に着く、座る

* *setzen* はもともと他動詞「(4格) を置く」

Setz dich bitte auf den Stuhl!

どうぞ椅子に座りたまえ。

* 動作としての「座る」のこと。移動の目的地のため、*auf* は4格と結ぶ。

Peter sitzt neben seiner Freundin. (⇒教科書 S. 23 の Übung 3)

ペーターはガールフレンドの隣に座っている。

* 「座っている」状態は *sitzen* で表す。静止した位置のため、*neben* は3格と結ぶ。

• **sich⁴ erkälten** : 風邪をひく

* *erkälten* はもともと他動詞「(4格) を冷やす」。

Er hat sich stark erkältet.

彼はひどく風邪を引いた。

• **sich³ etw. wünschen** : <4格> を (自分のために) 望む

Ich wünsche mir ... / Du wünschst dir ... / Er wünscht sich ...

Wir wünschen uns ... / Ihr wünscht euch ... / Sie wünschen sich ...

私は (私自身のために) / 君は (君自身のために) / 彼は (彼自身のために) ~を望む。

我々は (我々自身のために) / 君たちは (君たち自身のために) / 彼ら (彼ら自身のために) ~を望む。

• **sich³ etw. überlegen** : <4格> を熟慮する

Ich werde es mir noch einmal überlegen.

そのことはもう一度よく考えておこう。

3 再帰動詞+前置詞の熟語

- ◇ 英語にもあるように (*help oneself to ...*など)、再帰動詞と前置詞を組み合わせた熟語が存在する。
- ◇ 再帰動詞+前置詞の熟語の例。

- **sich⁴ an et⁴. erinnern** : 〈4格〉を思い出す

- * erinnern は前置詞 an と結ぶ一般の他動詞としても使え、*jn. an et⁴. erinnern* で「*jn.*に *et⁴.*を思い出させる」の意味となる。*jn.*に *sich⁴* (自分) を代入すると、「自分に *et⁴.*を思い出させる」、つまり「*et⁴.*を思い出す、記憶している」の意味になる。

- (一般) Er **erinnert mich an** meinen gestorbenen Bruder.

- 彼は、私に死んだ兄弟を思い出させる。(=彼を見ると、私は死んだ兄弟を思い出す。)

- (再帰) Ich **erinnere mich an** meinen gestorbenen Bruder.

- 私は死んだ兄弟のことを覚えている。

- **sich⁴ auf et⁴. freuen** : 〈4格〉を楽しみにしている

- **sich⁴ über et⁴. freuen** : 〈4格〉を喜ぶ

- * freuen は一般の他動詞「*jn.*を喜ばせる」としても使うことができる。*jn.*のところに *sich⁴* (自分) を代入すると、「自分を喜ばせる」、つまり「喜ぶ」の意味になる。この場合、前置詞 auf+4格を用いれば「未来のことを楽しみにしている」、前置詞 über+4格を用いれば「現時点ですでに起きていることを喜ぶ」の意味になる。

- (一般) Es **freut mich sehr**, dass du endlich kommst. (⇒教科書 S. 35)

- 君がとうとう来てくれたことが、私を喜ばせる。

- (=君がとうとう来てくれて、私はうれしい。)

- * es は仮主語であり本来の主語が dass 節であることは、前期に説明した通り。

- (再帰) Er **freut sich auf** die Weihnachtsferien.

- 彼はクリスマス休暇を楽しみにしている (＝時点はクリスマス休暇以前)。

- (再帰) Er **freut sich über** die Weihnachtsferien.

- 彼はクリスマス休暇に喜んでいる (＝時点はクリスマス休暇中)。

- **sich⁴. für et⁴. interessieren** : 〈4格〉に興味がある。

- * interessieren は一般の他動詞「*jn.*の興味を引く」としても使うことができる。*jn.*に *sich⁴* (自分) を代入すると、「自分の興味を引く」、つまり「興味がある」の意味になる。

- (一般) Das **interessiert** mich nicht.

- そのことは私の興味を引かない。(=私はそのことに興味がない。)

- (再帰) Ich **interessiere mich für** Physik.

- 私は物理学に興味がある。

- **sich⁴. um et⁴. kümmern** : 〈4格〉に気を配る、〈4格〉の面倒を見る

- * kümmern はもともと一般の他動詞「*jn.*をわずらわせる」。 *jn.*に *sich⁴* (自分) を代入すると、「自分をわずらわせる」、つまり「気を配る」の意味になる。

連絡先など

教員のメールアドレス : tokan@nifty.com 授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり) : <http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>